

(公財)福岡よかトピア国際交流財団 中期経営方針 概要

1. 策定の目的

社会情勢が大きく変化中、留学生をはじめ外国人住民への支援の必要性が高まっている一方で、財団運営において、自主財源の減及び国際会館改修費の増が見込まれている。財団が今後も引き続き、求められる役割を適切に果たしていくため、社会情勢の変化を見据えた目指す方向性を定め、職員全員がそれを共有したうえで、今後取り組むべき課題等を克服して目指す姿を実現していくための指針として策定する。

【主な社会情勢の変化】

外国人住民の増加 多様性と包摂性のある社会へ 頻発する自然災害 デジタル化の進展 感染症の拡大

2. 実施期間: 令和3年(2021年)4月～令和8年(2026年)3月 ※令和5年度(2023年)中間評価

3. 財団の目指す姿と目指す姿を支える基盤

【目指す姿】

(1) 国籍等に関係なく、同じ地域住民として助け合いながら生活する環境づくり

(2) 国際社会で活躍できるグローバル人材の育成と定着

(3) 相談・交流機能の充実強化により外国人に信頼される国際交流拠点

【目指す姿を支える基盤】

自主財源の確保

情報発信機能の強化

外国人支援の輪の拡大

4. 目指す姿を実現する取組みの方向性

(1) 国籍等に関係なく、同じ地域住民として助け合いながら生活する環境づくり

取組みの方向性	事業例
地域コミュニティにおける外国人住民との交流支援	○地域への支援メニューの充実 ○外国人支援ボランティアバンクの創設等
日本語教育の推進	○新規事業の企画
子ども向けや子育て支援分野における新たな取組みの構築	○語学ボランティアを活用した外国人家庭への支援 ○外国人親子が集まる場や機会の創出
オンライン化の積極的な活用促進	○オンラインによるホームビジットの取組み ○対面型講座など既存事業のオンライン化

(2) 国際社会で活躍できるグローバル人材の育成と定着

奨学金制度の充実と寄付金拡大に向けた取組み	○企業寄付金による冠奨学金制度の拡大(企業向けPRの充実)
留学生の就職を支援する様々な事業やイベント等の開催	○留学生と企業との交流サロンの拡充 ○留学生向け企業見学や説明会等の開催

(3) 相談・交流機能の充実強化により外国人に信頼される国際交流拠点

外国人総合相談支援センターの充実	○相談支援センターの機能拡充 ○SNSを活用した幅広い相談対応の拡大
新規事業の企画、開催や既存事業の見直し等による交流機能の強化	○外国人親子や子ども向け交流イベントの開催 ○留学生から学ぶ外国語教室の改善
留学生宿舎の方向性検討	○収支改善の検討、今後の方向性検討

5. 目指す姿を支える基盤づくり（今後の取組み）

（1）公的機能の充実・強化のための自主財源の確保

① 「留学生から学ぶ外国語教室」の改善（短期）

⇒短期コース併設や交流イベント開催等改善による自主財源の確保

② 基本財産運用の見直し（継続的に検討）

⇒運用体制の強化も含め、運用先や運用方法について継続的に検討

③ 寄付金拡大による財団奨学金制度の充実（中期）

⇒税制上のメリット等の丁寧な説明による個人や企業からの寄付金の新規獲得

④ 新たな財源確保の検討（継続的に検討）

⇒事業の見直しや寄付金の獲得、財団所有の不動産の活用など、幅広い財源確保の方策検討

（2）情報発信機能の強化

① 様々なSNSを活用した財団の認知度向上（短期）

② 災害時の外国人支援対応の確立（短期）

③ 新型コロナウイルス感染症などに関する的確な情報発信（短期）

（3）外国人支援の輪の拡大

① 災害時支援や交流支援ボランティア、チューター制度などボランティア制度の拡大

令和3年度
実現予定

② 福岡外国人学生支援の会やふくネット加盟団体等によるネットワークの輪の拡大（中期）

③ 寄付金拡大による財団奨学金制度の充実（中期）（再掲）

④ 事業やイベント等にかかる申込等のオンライン化推進（短期）

6. 事業実施に必要な体制（望ましい運営体制の検討）

○知識や経験に裏打ちされた企画力や課題解決力を組織として継承していく必要がある。

⇒嘱託職員を対象としたポストの新設により新たな取組みへの挑戦や人材育成を行う体制の構築

○財団が求められる役割を適切に果たしていくため、職員の専門能力の向上、ノウハウの蓄積などが必要である。

⇒研修計画（年間）の策定、外部機関の研修等の効果的な活用による職員自ら学び育つ環境づくりの構築

7. 目標設定とスケジュール

○社会情勢の変化に応じた事業の推進

指 標 項 目		現状値 R元年度	目標値 R7年度
オンライン化の積極的な活用促進	オンライン(財団 HP)で申込等が可能な事業数	—	5
外国人親子が集まる場や機会の創出	外国人親子等を対象とした新規事業の企画実施数	—	5

○外国人に信頼される国際交流拠点

外国人住民による財団の認知度（福岡市外国籍市民アンケート）		23% (H30年度)	50%以上 (R6年度)
情報発信機能の強化	フェイスブックのフォロワー数	2,253人 (R2年度)	5,000人
	ボランティアによる財団情報等のSNS発信件数	—	1,000件
外国人支援の輪の拡大	外国人支援ボランティアの登録者数	117人(※)	450人

※令和2年3月末現在の語学ボランティアの登録者数

○新たな財源の確保

奨学金制度の充実	企業や団体、個人からの寄付金額	約520万円	約650万円
----------	-----------------	--------	--------

【今後のスケジュール】

「ウィズ・コロナ」と「アフター・コロナ」で時間軸を分けて検討を行い、具体化できるものから順次実施。